

杵築市議会 産業建設常任委員会 視察報告書

(敬称略、順不同)

1. 日時 令和6年7月3日(水)～5日(金)
2. 視察先
 - ・公益財団法人東京生薬協会(東京都薬用植物園・東京都小平市)
 - ・株式会社龍角散(東京都千代田区)
 - ・千葉県香取市
3. 参加者(委員長)小野義美 (副委員長)多田忍
(委員)藤本治郎・田中正治・真鍋公博・酒井健太
(随員)江藤朋子
4. 視察事項
 - ・杵築市の薬用植物の栽培の計画について
 - ・重要伝統的建造物群保存地区の観光活用について

5. 視察内容

◇ 公益財団法人東京生薬協会、株式会社龍角散

視察日 令和6年7月3日（水）
場所 東京都薬用植物園、龍角散ビル（本社）
対応者 東京都薬用植物園（統括管理責任者 栽培指導員）山上勉
株式会社龍角散（社長付）坪井正樹
（業務推進本部総務経理部人事）黒崎浩伯
（マーケティング部）鈴木覚子

1) 東京都薬用植物園概要

昭和21年設立以来、薬務行政のひとつとして薬用植物の収集・栽培をしている。平成15年度には、試験研究機関としての機能をより強化するため、健康安全研究センター内の組織として再編された。現在は主に違法ドラッグや健康食品の指導・取り締まりに向けた植物鑑別等の試験検査・調査研究を行っている。また、園内の一般公開や、薬草教室等の開催により、薬用植物の正しい知識の普及に努めている。入園料は無料。

2) 面積及び施設

・総面積	31,398 m ²	・薬事資料館	337 m ²
・ふれあいガーデン	2,000 m ²	・温室（冷房室含む）	418 m ²
・標本区	6,570 m ²	・栽培試験区	4,130 m ²
・林地	10,025 m ²	・その他	

3) 説明内容

あへん法等により栽培が禁止されているケシやアサの栽培を行っている。試験区は二重、三重に区画し、防犯カメラで監視している。違法ドラッグに関する調査研究も進めている。

他に有毒な植物なども栽培しているが、薬用部位を製造原料とすることで、医薬・医療面にも使用されている。

野生植物が減少する主な原因として、森林伐採や開発、人による採取等が挙げられるが、杵築市が薬用栽培しているキキョウやミシマサイコなども絶滅危惧種となっている。

4) 表敬訪問

東京都薬用植物園の山上勉氏に案内をお願いし、株式会社龍角散を訪問した。（社長は所用のため不在）

小野委員長が、平成30年から毎年「企業版ふるさと納税」をいただいていること、またキキョウの生産にあたり技術指導や助言をいただいていることについてお礼を述べ、併せて現状についての説明（キキョウの生産農家が32戸に増え、栽培面積も150aと広がりつつあることや、いただいたふるさと納税で栽培・生産のための農機や資材などを購入していること）も行った。

5) 写真

<東京都薬用植物園>



<株式会社龍角散>



◇ 千葉県香取市

視察日 令和6年7月4日（木）
場所 佐原町並み交流館、重要伝統的建造物群保存地区
対応者 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会 理事長 佐藤健太良
香取市議会 生活経済建設常任委員長 久保木宗一
香取市 生活経済部 商工観光課 観光班 班長 行木章
建設水道部 都市整備課 建築・街なみ班 主任技師 保科拓哉
議会事務局 議会班長 多賀谷朱美
香取市町並み観光案内ガイド

1) 香取市佐原概要

香取市は平成18（2006）年3月に、佐原市、小見川町、山田町、栗源町の1市3町で合併。人口70,096人（令和6年6月1日現在）、面積262.35km²。

基幹産業は農業（米、サツマイモ、にら、ねぎ、ぶどう等）。

観光も三小江戸（川越市・栃木市・香取市）の一つで、平成30（2018）年時点の観光入込客数（延べ人数）は、香取神宮 189万人、道の駅水の郷さわら 116万人、道の駅くりもと 82万人、佐原の大祭（夏祭り、秋祭り） 75万人で、観光資源も豊富である。

佐原は、千葉県の北東部に存在する。古くから水郷の町として栄え、市街地の小野川沿いには小江戸とも呼ばれる当時の町並みが残っている。また伊能忠敬の婿養子先の地でもあり、地図の町としても有名である。和風の町屋や洋風建築など、時代の変遷を映し出す伝統的建造物が、住民の暮らしに根付いている。落ち着きと風格ある地区は重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に指定され、建築物の外観の保存、再生に努めている。

特に、住民によるまちづくり活動も、小野川の清掃、観光施設の防災訓練、町並みの案内、佐原まちぐるみ博物館、雛めぐり、五月人形めぐりなどがある。

2) 質疑応答

○重伝建の指定前と指定後の変化について。

→佐原交差点付近が栄えた。（そこ以外が課題となった）

○重伝建に対する行政以外の組織は。

→NPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」。

○観光や商業サイドとの連携について。

→イベント、お祭りで連携。

○他の自治体との連携について。

→全国伝統的建造物群保存地区協議会（伝建協）など活用。

○重伝建地区の今後の課題は。
→若い世代に対するアプローチ。

3) 所見

町並みの活用はとても参考になった。観光地として必要な、交通の利便性が特に高いというわけではないようであるが、コンパクトにまちづくりをしている点には感銘を受けた。

また祭りにはかなり力を入れており、豪華絢爛な山車はいつか必ず見てみたいと思えるものだった。

観光の観点から、杵築市は到底及ばないと悔しい思いであったが、取り入れられるものとしては祭りのプロモーションだと考える。お城まつりや天神まつり、観月祭にもっと注力してみてはどうだろうか。

4) 写真

<佐原町並み交流館>



<町並み観光案内ガイド>

